

令和7年度 第1回佐賀県立鹿島高等学校学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年6月13日(金) 13:15～15:00

場 所：鹿島高等学校赤門学舎図書室

参加者：19名【委員(9名)】【事務局(4名)】【校内委員(6名)】

I 学校長挨拶

- 学校運営協議会が発足して4年目を迎える。昨年度まで、県の「SAGA 唯一無二の魅力化実践事業」の指定校として取組を進め、県内外から高い評価を受けている。今年度から「SAGA 唯一無二の魅力化促進事業」のモデル校に指定されている。普通科改革と連動させながら、志願者増にも取り組んでいきたい。
- 地域の特性として、外からの刺激、情報が入りにくい。社会の変化を感じにくい環境である。そのような中、学校運営協議会は重要な役割を果たしている。学校運営協議会の様々な活動を通して、生徒が実社会とつながって、いろいろな人々の生き方、考え方に触れて、視野を広げたり、地域貢献を通して自己有用感を高めたりすることができると思う。未来を担う人材の育成につなげていきたい。
- 活動の全体像を整理して、職員、運営委員で共通理解を図りながら、無理なく持続可能な形で、取り組んでいきたい。

II 鹿島高等学校学校運営協議会について

- 学校運営協議会は、3部会編成・・・魅力化評価部会、キャリア教育部会、地域連携部会
- 令和7年度SAGA唯一無二の学校魅力化促進事業の内容について
学校運営協議会、普通科改革、広報、志願者増の4つの柱での取組

III 学校運営協議会委員委嘱について・・・学校長から運営委員へ委嘱状交付

IV 会長挨拶

- これまでの3年間の取組を、よかったところも含めて振り返りをする必要あり。改善できるところは改善しながら、校長先生のお考えを踏まえて、今後の3年間の取組をよりよいものとしていきたい。
- 外から見たときの学校の価値、地域に愛される学校であることは、大変重要。鹿島高校が、地域の課題解決や地域の価値創造のための存在となってくればありがたい。生徒にとっても、地域や保護者にとっても、鹿島高校がよりよいものであり続ければ、志願者増を含めて、結果につながっていくと考える。

V 議事

1 スクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて（学校長）

- 伝統と新しい取組を融合させて、探求活動と普通科改革を推進。
地域の力の積極的な活用 → 学校運営協議会が大きな役割を担っている。
- 3つの学科の相互作用を通して、社会を支え未来を切り拓く有為な人材の育成。

多様な人々との協働、共生の時代において、互いを認め合い、尊重し合う人材、未来を担う人材の育成を行う学校でありたい。

➤ 目指す生徒像について

「大志」・・・誰かのために力を尽くすという思い、自分の夢の実現が誰かの幸せにつながるように、思いを高めてほしい。

「探求」・・・自分への問い「自分は何ができて、どうありたいか」

社会への問い「社会はどうあるべきなのか」

2つの問いの答えを探し続ける中で、自分の強みを社会の課題解決にどう生かすのかを考え、自分の進むべき進路を見出してほしい。

「至誠」・・・誠実に、真心をもって周りの人に接する。

→ 周りの人との協働、共生、信頼が必要。

○この3つの力をつけるための取組として、学校運営協議会で取り組んでいる、キャリア教育、高校生ティーチャー、高校生サポーターは、大変重要な役割を果たしている。今後も、学校と地域が一体となって取り組んでいきたい。

2 令和6年度学校運営協議会活動状況と令和7年度学校運営協議会年間計画について

➤ 令和6年度学校運営協議会活動状況

- ・学校運営協議会（年3回）、魅力化評価部会（年4回）、キャリア教育部会（年3回）
- ・「高校生ティーチャー」・・・年間を通して、地域へのボランティア活動に参加
- ・「高校生ティーチャー」・・・7月～8月に、地域の小学生を対象に、宿題サポート、
絵画、スポーツ、プログラミング教室を実施

➤ 令和7年度学校運営協議会年間計画

3 令和7年度学校評価計画について ※学校運営協議会の取組に大きく関わる項目を説明

➤ SAGA唯一無二の学校魅力化促進

〈重点取組の内容〉教育課程内・外の教育活動の充実、カリキュラムの磨き上げ、広報活動の充実

- ・「自分の学校を中学生に勧めることができる」と回答する生徒の割合を80%以上、職員の割合を95%以上にする。
- ・普通科新コースにおける授業評価アンケートで、「授業・学習」に満足している生徒の割合を85%以上にする。
- ・高校入試及び進路希望調査における志願倍率を1.01倍以上にする。

○年間を通して、掲げた目標を達成するための具体的な取組を進めていき、その評価を行う。

4 令和7年度高校魅力化評価について

➤ 令和7年度学校重点目標

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| (1) この学校を中学生に勧めることができる。 | 生徒 80.0 % / 職員 95.0 % |
| (2) この学校に入ってよかったと思う。 | 生徒 80.0 % |
| (3) 自分の将来について明るい希望を持っている。 | 生徒 80.0 % |

- (4) 将来、自分の住んでいる地域のために役立ちたいという気持ちがある。 生徒 80.0 %
- (5) 学校で学習することで、自分ができることや、したいことが増えている。 生徒 90.0 %

5 令和7年度所要経費計画について

6 各部会からの報告

○キャリア教育部会

- 旭ヶ岡キャリアラボのミニセミナーについて
 - ・夏休みを利用して、近隣の大学生に依頼し、大学の勉強や生活のこと、鹿島高校時代のことなどについて話してもらう機会をつくる。
 - ・大手門学舎にも、キャリアラボの部屋を準備できないか。
 - ・「旭ヶ岡キャリア塾 Stage4」に向けて準備を進めていく。これまでの反省点を生かし、バージョンアップしていきたい。

◎運営委員からの意見等

- 中学校においても、ふるさと鹿島のよさ、そこで学ぶ喜びを子どもたちに伝えていきたい。また、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりに取り組んでいく。
- キャリア塾は、いろいろな職種の方のお話が聞ける機会。また、勉強することがどのように将来につながっているのかを考える機会にもなり、学習意欲の向上にもつながるのではないかと。ぜひ、中学生の保護者さんや中学生にも案内をして、多くの方に見に来てほしい。
- 学校紹介ハイスクールウェビナーについて
 - ・今年度は、生徒が中心となって作成。作成に関わった生徒たちも、改めて学校のよさについて考える機会となったのでは。
 - ・子どもたちや保護者さんは動画等をよく見ている。学校の楽しさが伝わる動画を、子どもたちの目線で作成したほうがよい。
- 外に向けての発信力が重要。
- 進学や就職等で鹿島を離れて外に出ても、外から鹿島市に関わってくれる関係人口を増やしていきたい。外から鹿島のことを発信してもらうことも大事。
- 鹿島市地域おこし協力隊が、鹿島市の様々な仕事取材している。いろいろな大人、カッコいい大人がたくさん鹿島にいることを生徒たちに知ってほしいので、伝えていきたい。また、鹿島高校の楽しさを動画などを使って伝えていきたい。